

2012 年第 1 四半期の純利益は 32 億ドルと公表
税引き後営業利益は 31 億ドル
2012 年第 1 四半期中核の保険事業の営業利益は 24 億ドル

2012 年 5 月 3 日（ニューヨーク発）：AIG は、2012 年第 1 四半期の AIG に帰属する純利益が 32 億ドル、税引き後営業利益が 31 億ドルになったと公表しました。これに対して、2011 年第 1 四半期は AIG に帰属する純利益が 13 億ドル、税引き後営業利益が 21 億ドルでした。2012 年第 1 四半期の希薄化後 1 株当たり利益、1 株当たり税引き後営業利益はそれぞれ 1.71 ドル、1.65 ドルとなり、これに対して前年はそれぞれ 0.31 ドル、1.34 ドルでした。

AIG 社長兼 CEO のロバート・H・ベンモシエは以下のように述べました。「中核の保険事業すべてが利益を計上し、AIG は今期も好業績をあげました。また米国政府が AIG への投資から利益を得られるようにするという約束を果たしています。当四半期に私達は、エー・アイ・イー・オーロラ・エルエルシー（AIA SPV）の優先持分を予定よりも 1 年早く回収し、米国政府による合計支援額の 75% を削減する、大きな進展を遂げました。」

「私達は事業のあらゆる点で、成功を積み重ねること、組織全体で経験や知識を学び合い、共有することに注力しています。チャータードでは自然災害関連の保険金請求は非常に少なく、コンシューマー・インシュアランス事業とコマーシャル・インシュアランス事業における地理的構成の再編、また成長国への注力による恩恵が見られます。チャータードの業績は、事業構成、損害率、引受リスクの改善に向けた、最終的に営業基盤の本質的価値を高めるような戦略的措置においても進展を示しています。サンアメリカは、競争力のある商品で構成される幅広いポートフォリオ、多様で強力な代理店との関係、規律ある商品料率の維持から恩恵を受けています。ユナイテッド・ギャランティは利益をあげ、リスク評価および料率で市場において成功を収める一方、延滞を減らすために従来からの取引を積極的に管理しました。」

ベンモシエ社長兼 CEO は以下のように締めくくりました。「AIG の従業員は自信を感じており、責任をもって、直接お客様や地域社会のためになるような決断をくだしています。私達は AIG に受け継がれてきた優秀性の再構築を進めています。第 1 四半期の成果が示しているように、私たちは組織全体を通して、ビジネスの進め方を変革しており、これは最終的には私たちのビジネスの健全性を高めることにつながります。」

流動性、資金管理およびその他の重要な動き

- 2012 年 3 月 31 日現在の AIG の株主資本は、1,035 億ドルとなりました。普通株式 1 株当たりブック・バリューは、第 1 四半期中に約 8% 増加して、57.68 ドルとなりました。これは、その他の包括利益累積額を含みます。
- 2012 年 3 月 7 日、AIG は AIA グループ・リミテッド（「AIA」）の普通株式 17.2 億株を売却し、それによる約 56 億ドルの収入は、AIA SPV（AIA に対する AIG の残りの持分を保有する特別目的会社）における米国財務省の優先持分を回収するために利用されました。
- 2012 年 3 月、ニューヨーク連邦準備銀行（NY 連銀）が、金融受け皿会社（Maiden Lane II）が保有する有価証券を売却したことによる AIG の収入 16 億ドルは、AIA SPV における米国財務省の優先持分を回収するために利用されました。2012 年 3 月 22 日、AIG は AIA SPV における米国財務省の優先持分を全て回収するために、15 億ドルの最後の支払いを行いました。AIA の残りの持分、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）の持分、金融受け皿会社（Maiden Lane III）における AIG の持分、AIG によるメットライフ・インクへのアリコの売却からの残りの収入を保有するエスクローなど、これまで AIA SPV に

における米国財務省の優先持分の回収を支援していた AIG の資産における担保権は、解除されました。

- 2012 年 3 月、米国財務省は AIG 普通株式の売出しを完了し、約 2 億 700 万株を売却して、合計でおよそ 60 億ドルの収入を得ました。AIG はこの売出しにおいて、約 30 億ドルで約 10 億 300 万株を買い戻しました。米国財務省が売却し、AIG が購入した結果、米国政府による AIG の保有比率は 70% 程度まで削減されました。
- 2012 年第 1 四半期中、AIG はマッチド・インベストメント・プログラム (MIP) で 20 億ドルの長期債を発行し、ILFC は 24 億ドルの債券を発行しました。
- 事業会社からの配当金および債務返済は、2012 年第 1 四半期には合計 26 億ドルとなりました。
- 2012 年 3 月 31 日現在、親会社 AIG の流動性はおよそ 124 億ドルとなっています。

税引き後営業利益（損失）の内訳
(単位：百万米ドル)

	第 1 四半期	
	2012 年	2011 年
保険事業：		
チャーティス	\$ 1,043	\$ (424)
サンアメリカ	1,311	1,171
モーゲージ・ギャランティ (その他に計上)	8	14
保険事業合計	2,362	761
航空機リース	119	117
直接投資	(156)	451
グローバル・キャピタル・マーケット	92	277
AIA の公正価値の増減 (2012 年の実現益を含む)	1,795	1,062
金融受け皿会社 (ML III) の公正価値の増加	1,252	744
支払利息	(470)	(558)
全社費用および消去 ⁽¹⁾	(171)	267
税引き前営業利益	4,823	3,121
法人税 (経費) / ベネフィット	(1,485)	(835)
非支配的持分 - 米国財務省 / NY 連銀	(208)	(252)
その他非支配的持分	(33)	55
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$ 3,097	\$ 2,089

(1) 2011 年第 1 四半期における NY 連銀クレジット融資枠の全額返済に関連する繰延利益 2.96 億ドルを含む。

チャーティス

チャーティスの2012年第1四半期の営業損益は、前年同期が4.24億ドルの損失であったのに対して、10億ドルの利益となりました。第1四半期の業績は、リスク調整済み収益の向上、事業ポートフォリオの質的改善、資金ポジションの強化に向けた進展を示しました。チャーティスは引き続き、付加価値の高い事業や地域の成長、料率トレンドの改善から恩恵を受けました。2012年第1四半期の業績には、異常災害損失8,000万ドルと、わずかながら前年の支払準備金による正味での影響が含まれています。AIGが継続的に注力している資金管理の一環として、チャーティスは当四半期に、10億ドルの非現金配当金を親会社AIGに支払いました。

2012年第1四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が118.6であったのに対し、102.1となりました。2012保険事故年度第1四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が98.3であったのに対し、100.4となりました。付加価値の高い事業へのシフト、料率の改善、リスク選択によって損害率は改善しましたが、費用の増加で相殺されました。2012年第1四半期の業績には、前年同期より5.2ポイント上昇した、経費率34.1が反映されています。2011年第1四半期の経費率には貸倒引当金の減額が反映されたのに対して、2012年第1四半期には貸倒引当金が追加計上されました。これに加えて、2012年第1四半期には取得事業の債務償却からの利益が減少しました。この2つの項目で、経費率はおよそ1.9ポイント押し上げられました。2012年の経費の増加は、収益性が高い商品を増やし、手数料率を高めるといった事業構成の変更に関連する取得費用の増加や、インフラ投資の増加を反映しています。

2012年第1四半期の正味収入保険料は、88億ドルであり、前年同期比で3.7%減少、為替の影響を除くと4.5%減少しました。コマーシャル・インシュアランス事業の保険料は、現地通貨建てでは、前年同期比8.5%減少しました。資金効率を高めるために損失に敏感な事業の再編を続けたことが、この減少のうち2.6%を占めました。また、前年に1.48億ドルの正味収入保険料を獲得した複数年にわたる金融向け商品の影響が、減少のうちさらに2.6%を占めました。残りの減少は主に、特に損害保険事業におけるリスク選択の改善に向けた措置によるものです。チャーティスにおける付加価値の高い商品への事業構成のシフトと歩調を合わせて、当四半期に特殊商品の保険料は増加しました。チャーティスはまた戦略的目標に沿って、成長国でコマーシャル・インシュアランス事業を拡大させました。コンシューマー・インシュアランス事業の保険料は、現地通貨建てでは2.9%増加しました。この主な要因となったのは、主要な国際市場における成長、利益率の高い事業へのシフト、アメリカン・ゼネラル・ライフ・インシュアランス・カンパニーとのグループベネフィットにおける戦略の実行です。コンシューマー・インシュアランス事業は、北米以外での直接販売チャネルへの投資によっても利益を増やしました。

コマーシャル・インシュアランス事業の2012年第1四半期の営業利益は5.65億ドル、コンバインド・レシオは103.4となりました。これに対して、2011年第1四半期の営業利益は3.84億ドル、コンバインド・レシオは122.2でした。2012保険事故年度第1四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと101.1となり、これに対して2011年第1四半期は99.1でした。付加価値の高い事業へのシフト、料率改善、引受リスクの改善による損害率の改善は、費用の増加により相殺されました。2012年第1四半期の業績は、前年同期比5.7ポイント上昇して29.3となった経費率を反映しています。貸倒引当金の増加と、主に事業構成の変更による取得費用は、経費率にそれぞれ約1.8ポイント、約3.0ポイント影響を及ぼしました。残りの上昇は主に、システム、プロセス、人材への戦略的投資に関連するもので、今後の貯蓄増加や営業基盤の強化につながるでしょう。

コンシューマー・インシュアランス事業の2012年第1四半期の営業利益は2.34億ドル、コンバインド・レシオは96.7となりました。これに対して、2011年第1四半期の営業利益は2.55億ドル、コンバインド・レシオは110.2でした。2012保険事故年度第1四半期のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと97.0となり、これに対して2011年第1四半期は95.6でした。付加価値の高い事業へのシフト、料率改善、引受リスクの改善による損害率の改善は、費用の増加により相殺されました。2012年第1四半期の業績は、前年同期比3.0ポイント上昇して38.6となった経費率を反映しています。これは主に、取得事業の債務償却からの恩恵が、前年と比べて小さくなったこと、また2012年には選別した市場での拡充に関連する取得・運営費用が増加したことによるものです。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの2012年第1四半期の営業利益は、前年同期が12億ドルであったのに対して、13億ドルとなりました。2012年第1四半期業績は、2011年中の現金再投資、2012年第1四半期の株式の好調なパフォーマンスによって恩恵を受けました。これを一部相殺したのは、2012年第1四半期のヘッジファンドおよびプライベート・エクイティ投資のリターンが、好調だった前年同期を下回ったことです。ヘッジファンドおよびプライベート・エクイティ投資のリターンはそれぞれ、ひと月遅れ、1四半期遅れで報告されています。

2012年第1四半期の正味投資利益は、基礎利回りの上昇により、前年同期を1.31億ドル上回りました。2012年第1四半期の基礎投資利回りは5.50%となり、これに対して前年同期は5.04%でした。これは2011年に余剰現金を再投資したことを反映しています。このような利回りの向上と、サンアメリカの規律ある貸出金利の管理によって、グループ・リタイアメント商品および個人向け定額年金の正味投資スプレッドは改善しました。

2012年第1四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の64億ドルに対して、計56億ドルとなりました。これは、低金利環境のため、個人向け定額年金預かり資産が減少したことによるものです。しかしながら、グループ・リタイアメント商品、個人向け変額年金、個人向けミューチュアル・ファンドはいずれも、大幅に改善しました。グループ・リタイアメント商品は、2012年第1四半期に前年同期比8%増加しました。これは主に、個人繰越し預かり資産が増加したことによるものです。サンアメリカは、低金利のため、個人繰越し預かり資産の成長は短期的には鈍化すると見込んでいます。個人向け変額年金預かり資産は2012年第1四半期には合計10億ドルとなり、前年同期比38%増加しました。これは、競争力のある商品の拡充と多数の主要ブローカー／ディーラー事業体による昨年夏の販売回復によるものです。ネット・フローは、5四半期連続でプラスとなりました。個人向け生命保険の販売は、2011年第1四半期から7%増加しました。これは、商品の拡充とともに、独立代理店チャンネルを修復するための努力が実を結んでいるためです。

2012年第1四半期にサンアメリカは、保険会社子会社から親会社AIGに16億ドルの流動性を提供しました。これは、NY連銀による金融受け皿会社（ML II）の資産売却収入によって調達したものです。

2012年3月31日現在の運用資産は、前年同期の2,539億ドルに対して2,650億ドルとなりました。

航空機リース事業

ILFCは、前年同期が1.17億ドルの営業利益を計上したのに対し、2012年第1四半期は1.19億ドルの営業利益を計上しました。2012年第1四半期に、ILFCはリース料収入11億ドルを計上しましたが、これは前年同期と同水準でした。これは古い機体の低料金での再リース、この1年間、新機の納入予定が限られていたことを反映していますが、2011年第4四半期にILFCが取得したエアロタービンからの収入によって相殺されました。

ILFCは2012年第1四半期に、有担保債、無担保債の双方でおよそ24億ドル調達しました。この起債による収入は、唯一残っていた経営権移譲条項付きのクレジット融資枠の解消、低コストの無担保債からの収入での既存の有担保ターム・ローンの前払い、流動性の向上に充てられました。ILFCは一部融資枠の早期返済に関連して、2,100万ドルの費用を計上しました。

モーゲージ・ギャランティ

AIG傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション（UGC）は、前年同期の1,400万ドルの営業利益に対して、2012年第1四半期には800万ドルの営業利益を計上しました。

2012年第1四半期の業績は、UGCが古い延滞勘定について貸し手との協力を試みた結果、第一抵当権付商品の前年の損害動向が良好であったことを反映しています。UGCは、20,000を超える古い延滞勘定に関して住宅ローンの貸し手と連絡をとり、14,000以上について回答を得ました。この回

答の結果、契約解除となったもの、請求が拒否されたもの、あるいは支払われたもの、延滞が救済されたものがあります。延滞率は低下しました。2012年第1四半期業績は引き続き、住宅市場全体の低迷から影響を受けました。

正味収入保険料は、前年同期の2.04億ドルに対して、1.91億ドルとなりました。これは、契約解除により、保険料の払い戻しが1,900万ドルとなったためです。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、前年同期が25億ドルであったのに対して、65億ドルとなりました。これは主に、UGCのリスクに基づく料率戦略、一部の競争相手の市場からの撤退によるものです。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは760、平均借入金比率は91%でした。

その他の事業

AIGのその他の事業の営業利益は、前年同期が21億ドルであったのに対して、2012年第1四半期には23億ドルを計上しました。

2012年3月30日の香港証券取引所終値に基づく、2012年第1四半期にAIA普通株式の公正価値は、18億ドル増加しました。公正価値の増加には、2012年第1四半期におけるAIA普通株式17.2億株の売却益6億ドルが含まれています。

金融受け皿会社（ML III）におけるAIGの持分の公正価値は、前年同期に7.44億ドル増加したのに対して、クレジット・スプレッドの縮小により、2012年第1四半期には13億ドルの増加となりました。

その他の本社費用は、前年同期が1.42億ドルであったのに対して、2012年第1四半期には計2.02億ドルとなりました。

カンファレンス・コール

AIGは、明日2012年5月4日午前8時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。米国財務省（「財務省」）が保有するAIG株式の売却時期、キャッシュフローの見通し、ならびに金融受け皿会社（ML III）におけるAIG持分の公正価値、ILFCに対するAIG持分の現金化、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対するAIGのエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対するAIGのエクスポージャー、AIGのリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIGによる配置可能な資本の創出、AIGの株主資本利益率および1株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関するAIGの戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略、そしてAIG子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常災害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなどAIGの投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならび

に引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、繰延保険獲得費用(DAC)の復元可能性に関する判断、ILFCの機体価値の復元可能性に関する判断、2012年3月31日末のAIGのフォーム10-Qによる四半期報告書パートI項目2(「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」)、またそれぞれ2012年2月27日、2012年3月30日に提出されたフォーム10-K/Aによる修正1、修正2で修正された2011年12月31日末のAIGのフォーム10-Kによる年次報告書のパートI項目1A(「リスク要因」)、さらにパートII項目7(「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」)で取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIGグループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130以上の国・地域でサービスを提供しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社AIG, Inc.の株式はニューヨークと東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定Gに関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、継続事業を最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非GAAP型の財務数値が用いられています。本リリース中の関連した表、およびAIG本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける2012年第1四半期の補足財務情報には、規定Gに基づく、最もGAAPに類似した数値が示されています。

AIGは、税引き後営業利益(損失)によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。税引き後営業利益(損失)は、非継続事業の純利益(損失)、事業売却による純損失、事業売却による純利益、繰延税金評価引当金の費用および減算、NY連銀前払委託手数料資産の償却、生前給付債務をヘッジするためのサンアメリカの債券の公正価値の変動、サンアメリカの給付金積立金の増加ならびに正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する繰延保険獲得費用(DAC)、獲得事業価値(VOBA)および販売促進資産(SIA)の給付(償却)、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)、また正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)を除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益(損失)を除きます。AIGに帰属する純利益(損失)の税引き後営業利益の調整については、9ページを参照してください。

また、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、一時的でない減損の認識、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、信用評価の調整、未実現評価益(評価損)、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、前年の動向に関連する返還または追加保険料、外国為替レート、航空機の減損を除外して示しています。

いずれの場合も、AIGはこれらの項目を除外することで、継続事業の業績と基礎的な収益を明らかにして、投資家の皆様がAIGの基本的な事業それぞれの業績をより良く把握することができると考えています。非GAAP型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP型の提示による情報よりも意味があると考えています。そのような指標が開示されている場合、GAAP型の税引き前利益への調整が示されています。

投資利益(または損失)および実現キャピタル・ゲイン(ロス)を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン(ロス)の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAPに基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン(ロス)は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高(収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険CPPE売上高)には、非GAAP型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIGは、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIGの保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

2012年第1四半期にAIGは税引き後営業利益(損失)の定義を見直し、サンアメリカの生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する給付金積立金の増加を除くこととしました。AIGは、このような税引き後営業利益(損失)の定義の見直しで、ヘッジに関連するボラティリティやキャピタル・ゲインを得るための活動を業績から除くことで、サンアメリカの事業の業績をより良く評価し、把握することができると考えています。AIGは、この見直し後の税引き後営業利益(損失)の定義を、AIGがサンアメリカの事業の業績をどのように評価しているかを示す指標としてより良いものと考えています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)
チャーティスの保険事業：			
正味収入保険料	\$ 8,820	\$ 9,166	(3.7) %
正味既経過保険料	8,688	8,651	0.4
請求および請求調整費用	5,909	7,756	(23.8)
引受経費	2,959	2,498	18.5
事業損失	(180)	(1,603)	88.8
正味投資利益	1,223	1,179	3.7
営業利益 (損失)	1,043	(424)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(135)	(50)	-
その他の利益 (損失)	2	-	-
税引き前利益 (損失)	\$ 910	\$ (374)	-
<hr/>			
損害率	68.0	89.7	
経費率	34.1	28.9	
コンバインド・レシオ	102.1	118.6	
<hr/>			
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：			
収入保険料の売上	\$ 605	\$ 621	(2.6)
保険証券発行手数料	691	684	1.0
正味投資利益	2,885	2,754	4.8
収入合計	4,181	4,059	3.0
給付および費用	2,870	2,888	(0.6)
営業利益	1,311	1,171	12.0
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く 給付金積立金の増加と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の給付 (償却)	(19)	-	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(466)	(220)	(111.8)
税引き前利益	862	967	(10.9)
<hr/>			
航空機リース事業：			
収入	1,153	1,156	(0.3)
費用	1,034	1,039	(0.5)
営業利益	119	117	1.7
正味実現キャピタル・ゲイン (a)	1	3	(66.7)
税引き前利益	120	120	-
<hr/>			
その他の事業、営業利益	2,322	2,137	8.7
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン調整前 税引き前利益(損失)	2,319	(1,562)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	417	(435)	-
会社間連結・消去調整 (a)	(44)	(26)	(69.2)
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益 (損失)	4,584	(1,310)	-
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	1,148	(226)	-
継続事業の純利益 (損失)	3,436	(1,084)	-
非継続事業の利益、税引き後	13	2,585	(99.5)
純損失	3,449	1,501	129.8
控除：			
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：			
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先 順位の低い受益権	208	252	(17.5)
その他	33	(55)	-
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	241	197	22.3
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	7	-
非支配的持分に帰属する純利益	241	204	18.1
AIG に帰属する純損失	3,208	1,297	147.3
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ 3,208	\$ 485	測定せず %

財務ハイライト（続き）

	3月31日までの3ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)
AIGに帰属する純利益	\$ 3,208	\$ 1,297	147.3 %
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）の調整（税引き後）			
非継続事業の純利益	13	2,578	(99.5)
事業売却の純損失	(2)	(47)	95.7
事業売却の純利益	-	6	-
繰延税金資産評価引当金（費用）／減算	289	(529)	-
NY 連銀前払委託手数料資産償却	-	(2,358)	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動	(19)	-	-
サンアメリカの給付金積立金の増加と、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス） に関連する DAC、VOBA、SIA の給付（償却）	36	11	227.3
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）	(239)	(384)	37.8
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）、正味実現キャピ タル・ゲイン（ロス）を除く	33	(69)	-
AIGに帰属する税引き後営業利益	\$ <u>3,097</u>	\$ <u>2,089</u>	48.3
普通株式1株当たり利益（損失） - 希薄化後：			
AIG 普通株主に帰属する純利益	\$ <u>1.71</u>	\$ <u>0.31</u>	測定せず
AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益	\$ <u>1.65</u>	\$ <u>1.34</u>	23.0
AIG 株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (b)	\$ 57.68	\$ 44.33	30.1 %
株主資本利益率—税引き後営業利益	12.8%	11.6%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- (a) ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- (b) AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- (c) その他の包括利益累積額を除く、調整済み株主資本を用いて算出しています。